

進路便り

第2号

平成28年12月19日
鹿児島盲学校進路指導部

小学部：「ねえ聞いて聞いて！」 大人ではなく『友達』に伝える姿から

6年生のSさんは、今年度から一人学級となりました。しかし、友達とのかかわりはどんどん広がっています。例えば、一泊二日の宿泊学習の最終日、友達に「お茶が飲みたい」と身振りで伝えるシーンがありました。学校では、困ったことがあればまず教師に伝えるSさんですが、宿泊学習を通してぐんと心の距離が縮まった友達に、自分の気持ちを伝えていました。また、授業である道具を使った活動を楽しんだところ、授業終了後に隣の教室までその道具を持って行き、友達に「こんなことしたんだよ」と伝えようとする姿もありました。伝えたい思いを胸に、自分から友達へ関わろうとする姿に、驚きとうれしさと胸がいっぱいになりました。



「友達（同年代の仲間）とかかわること」、関わりの中で「自分の気持ちを伝えること」は、キャリア教育の視点からも大切な力だと感じます。友達と関わる楽しみが増えることで、頑張れることも増えると思います。また、友達に伝わる喜びを感じることで、「もっと伝えたい！」と表現の仕方も広がっていくと思います。Sさんの姿から、友達の存在の大きさをひしひしと感じる毎日です。これからも友達と関わる時間を大切に過ごして欲しいです。

中学部：職場見学



11月16日（水）は、中学部の職場見学でした。中学部の生徒3人と、職員4人の計7人で、下福元町にある「社会福祉法人常磐会」の運営する「しろやまの風」に行きました。「しろやまの風」は、五つの施設からなる複合型の施設で、幅広い活動をしています。私たちは、施設の方に説明を受け、見学をさせていただきました。多くの利用者の方が、それぞれの日課に従って活動されていました。「しろやまの風」は、現在通学中の児童生徒も放課後の活動に参加していて、とてもたくさんの方が利用していることが分かりました。印刷の作業をしているところでは、丁度、県庁職員の方の名刺を作成していました。パソコンでA4サイズ1枚に印刷されたものが、特殊な裁断機で名刺大にカットされる様子を、興味津々に見ていました。

午後からは、谷山支所を見学しました。支所では、特別に選挙の体験をさせていただきました。今年から選挙年齢が18歳からになり、二人にとって選挙が身近なものになってきています。また、点字での投票を体験しました。3年後の選挙で迷わず投票できると思います。

中学部：進路講演会に参加して



11月16日（水）に、「卒業生のお話を聞いてみよう」という題で実施された講演会に中学部生3人と職員そして保護者の皆さんが参加しました。進路企画で計画されたこの講演会は、卒業生の方から、仕事に従事してから今までの経過、学校時代の進路を決めるまでの様子等について、率直な気持ちを丁寧に話してくださいました。



生徒や職員はもちろんのこと、当日参加された保護者の方も、お話を聞いて良かったと感想を述べていらっしゃいましたので、そのときの気持ちを文章にさせていただきたくお願いしました。

〔保護者の感想より〕

現在、息子は盲学校の中学部三年生になりました。三年生になると、ほとんどのご家庭が「進路」という言葉に翻弄されるのではないのでしょうか。我が家も例外ではなく、その言葉にあたふたし始めていました。そんなとき、担任の先生から、本校卒業生の講演会が開催されることを教えていただき、是非参加したいと申し出ました。

当日、卒業生の方が来られました。講演の内容としては、彼の学生時代の日常と、卒業後現在の日常を話してくださいました。特に現在の職場で、どのような方法で人間関係を築きあげてきたかということ、そしてそこから自分の居場所を作り、さらなるチャレンジをしていることなど、大変興味深いものでした。講演会の最後には、彼のピアノ演奏で締めくくられ、とても素晴らしく充実した時間を過ごせました。

彼が残してくれたメッセージは、会場にいた全員の心に勇気と希望を与えてくれたことと思います。事実、わたしも彼のお話を聞くまでは、自分の価値観だけで、息子の将来を考えていたのですが、講演後は、以前より視野が広がり、息子が求めることの中で、今わたしにサポートできることを焦らず探そうと思えるようになりました。親というもの、時々子どもへ過剰に期待してしまうことがあります。それは悪いことではないのですが、子どもにとって負担になることもあり、そこに気付くためには、いろいろな方の経験話を聞くことだと確信しました。今回こんな良いチャンスをいただけたことに感謝します。ありがとうございました。

高等部普通科：産業現場等における実習



10月31日（月）～11月4日（金）の二週間、産業現場等における実習が行われました。高等部に入学して三回目の実習ということもあり、事前学習に真剣に取り組み、実習に向けての意気込みを発表する激励会でも、大きな声で明るく元気に発表してくれる姿に大きな成長を感じました。

二週間の実習では、初めての環境に飛び込み、自分なりの目標に向かって日々、真剣に作業に取り組んでくれました。慣れない環境での実習を充実したものにするために、御家庭でも温かくサポートしていただきました。

実習後は、実習先からの評価をもとに、事後学習、担任との面談などでしっかりと振り返りを行い、今後の進路決定に向けての一步を踏み出すことができたのではないかと思います。



高等部普通科：職場体験学習（職場実習）



11月9日～11日の三日間、（基本は三日ですが、生徒によっては一週間～二週間になりました。）職場体験学習が行われました。今年度は以下の事業所、施設での実習となりました。

実習先は、本人の希望、保護者の思いなどを教育相談で聞き取りながら、決めていきます。本人の「何をしてみたいか、何ができるのか」という希望、保護者の「どう生きてほしいのか」という思いを御家庭で話し合うことが、まず第一歩かと思えます。

- ・ 鹿児島県障害者情報視聴覚センター
- ・ 障害福祉サービス事業所ウイズ（就労移行事業所）
- ・ クローバー三つ葉事業所（就労移行事業所）
- ・ オレンジ学園
- ・ 社会福祉法人天上会 カイロス（B型事業所）
- ・ 高齢者福祉施設 やしの実
- ・ 麦の芽福祉会 なかまの夢工房（A型事業所）



〔生徒のレポートから〕

2年生の時から多くの実習経験を通して、私は仕事の大変さや、自分の適性、働く上での課題、コミュニケーションの難しさに気付くことができました。（中略）

一般就労をする上で自分に足りないものは、自分からコミュニケーションをとること、臨機応変に動くことなどである。（中略）

いずれは、一般就労を目指して、頑張りたい。

学校で学ぶだけでなく、実際の社会に出ること（実習）で、自分の適性や課題に気付く、それを生かすことができたのかなと思います。社会に出るにあたり、「自分には何ができるのか、何か苦手なのか」と自分自身と向き合うことはきついことかもしれませんが、とても大切なことだと思います。

「はたらく自分」「はたらく子ども」をイメージしながら、御家庭でも話をさせていただけたらと思います。

プロフェッショナル～卒業生の今～ ❄️❄️❄️❄️❄️❄️❄️❄️❄️❄️❄️❄️

実際に医療の現場で活躍されている卒業生の方々へお話を聞かせていただくコーナーです。ぜひ、これから進路を考える際の参考にしてください。

「芸（技術）は身を助ける！」Kさん（H25年3月卒業）

Q. 勤務先について教えてください。

A. 私が勤務しているクリニックには、現在整形外科と内科の2科があります。名前のごとく診療所で入院患者は19人までとなっています。

内科は1日に80人の患者の人工透析を中心に行っています。整形外科については理学療法士が7人、マッサージ師が4人助手が一人のメンバーで行っています。リハビリ関係の患者は1日に100人程度です。



Q. 実際の勤務内容について教えてください。

A. 勤務時間は8時半から18時までで、途中に昼休みが1時間あります。朝30分掃除をし、9時から治療を始めています。患者を呼ぶときには名前ではなく番号で呼んでいます。午前中はほとんど休みなしに治療しています。一人の治療時間は20分程度です。午後は14時から治療を開始し、マッサージは1日に一人が15から20人の患者を治療しています。

施術内容については医者からの指示に従って患者によって上半身、下半身のいずれかを施術する形で行っています。

鍼治療については毎週水曜日をはり治療日に設定し、予約制にしています。3人のは鍼師が一人ずつ交代で担当し、一人1時間程度の治療をしています。

Q. 職場までは、どのようにして通勤していますか？

A. 通勤は基本的にはバスで通勤しています。天気の悪い日や日没が早い季節には、妻に送迎してもらうこともあります。

自宅からバス停までは徒歩で10分、バスの乗車時間は15分、バス停から職場までは徒歩で10分程度です。

Q. 実際に働いてみて、困ったことはありますか？また、逆にうれしかったことや、やりがいを感じる瞬間などありましたら教えてください。

A. 困ったことはたくさんありますが、あえて一つあげるとすれば、患者さんの顔が視覚で確認できないために患者さんの名前を覚えるのが大変だということです。個々の患者さんが強もみか弱もみか、また施術してはいけないところなどそれぞれの患者さんの特徴を覚えるまでに苦労しました。このことは視覚障害者が就職して患者さんと接するときの一番の課題なのではないかと思い、頑張っ覚えてるよう努力しています。

また、技術面については急に上手になれるものではないですし、焦らず徐々に磨いていくつもりで

いましたので、技術に関しては特に困ったということはありませんでした。

カルテの記録については、拡大読書器を活用して記載しているので特に困ることはありません。

うれしかったことや、やりがいを感じる瞬間は、患者さんの治療が終わった後、気持ちが良かったとか、治ったような気がする等うれしそうな顔で感謝されたときです。

Q. 学生時代に、もっと頑張っておけばよかったと思うことはありませんか？

A. 3年間の授業の中で臨床実習という科目があります。その時間の中でいろいろな機会を与えていただいたのですが、それを十分活用していたかという点必ずしもそうではなかったような気がします。患者さんに、痛いところとか、苦痛に感じているところなどをもう少し細かく問診しながら施術していたら技術面やコミュニケーションのとり方など身に付けられたのではないかと思います。就職してからは、医者立場もあり、患者さんに細かいところまで聞くことはなかなかできないです。今になってももう少し臨床実習を頑張っておけばよかったかなと思います。

座学では、基礎医学である解剖学や生理学、東洋医学なども頑張っておけばよかったかなと思っています。

Q. 最後に、後輩たちへメッセージをお願いします。

A. 授業中に少しでも疑問をもったときには、先生たちに質問して納得していけるような学習に取り組んでほしい。それが卒業後に役に立つのではないかと思います。人の体というものは十人十色で一人一人違うことを今、職について痛感しています。自分が抱いた疑問を学生時代に解決しておくことで、患者さん一人一人を施術するときに一人でも多くの患者さんのいろいろな疑問を解決できるようになるのではないかと思います。

最後に、「芸は身を助ける」といいます。在校生の皆さん、知識と技術を十分身につけて卒業後社会に出て役立てるよう頑張ってください。

お忙しい中、インタビューに答えてくださり、本当に、ありがとうございました。貴重なお話を聞かせていただき、今後の参考になりました！

ありがとうございました！



本年度は、夏季休業中の施設見学等たくさんの保護者の方々に御参加をいただき、ありがとうございました。

来年度も施設見学や外部講師を呼んでの進路研修なども実施したいと思っています。お忙しいかと思いますが、たくさんの御参加をお待ちしております。また、何か気になることやお気づきのことなどありましたら、気軽に御相談ください。

